

令和元年度(2019年度)

管理事業名	千里ニュータウン情報館事業			総合計画の体系	大綱 6 政策 1 施策 1	都市形成 みどり豊かで安全・快適な都市空間づくり 土地利用誘導と良好な景観形成
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 2	総務費	(項) 1	総務管理費	(目) 30 千里ニュータウンプラザ費
部局名	都市計画部	予算執行所属	計画調整室			
予算大事業名 千里ニュータウン情報館事業	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名					
事業の目的と概要 【目的】 千里ニュータウンのまちづくりの資料収集、公開、情報発信を行うことにより、千里ニュータウンのまちづくりの推進に寄与する。 【概要】 千里ニュータウンプラザ施設管理事業(千里ニュータウンプラザ内に設置している千里ニュータウン情報館の建設費や修繕費などの維持管理経費に関する事) 千里ニュータウン情報館運営事業(千里ニュータウンのまちづくりの歴史や住民の生活文化に係る資料の展示、地域情報の発信に関する事)						

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	成果指標の定義
入館者数	人	8,658	10,215	26,749	千里ニュータウン情報館の入館者数
維持管理経費の執行額	千円	15,606	15,968	15,834	公共施設として、入館者の利便性、快適性の向上を図りながら維持管理経費の適正な執行を行う。
成果の説明	入館者数については、平成29年度から増加しています。毎年、常設展示に加えて企画展を年に2回実施し、多くの方々に千里ニュータウンのまちづくりの歴史や住民の生活文化などを知っていただく展示に取り組んでいます。さらに、令和元年度はエキスポシティ内のインフォレストすいたで出張展示を実施し、より幅広い層へ千里ニュータウンの情報発信を行いました。また、昨年に引き続き、同じ千里ニュータウンプラザ内の千里図書館との連携したイベントを開催し、集客の向上に取り組んでいます。 維持管理経費については、安全で清潔な環境を維持しつつ館内設備の節電を行うなど、削減に努めています。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常収入 小計(a)	-	-	-	-
給与関係費	19,418	19,686	22,693	3,007
物件費	7,657	8,359	9,194	835
維持補修費	-	-	-	-
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	-	-	-	-
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	1,012	1,012	1,012	-
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	1,692	1,763	1,910	147
退職手当引当金繰入額	15,936	1,520	1,792	273
支払利息	2,238	2,087	1,940	△147
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	47,953	34,427	38,542	4,116
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△47,953	△34,427	△38,542	△4,116
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△47,953	△34,427	△38,542	△4,116
一般財源充当額	39,141	41,278	44,910	3,631
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△8,813	6,852	6,367	△484

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
給与関係費	職員人件費 22,693千円(+3,007千円)
物件費	物件費9,194千円(+835千円)主な増減は委託料 千里ニュータウンプラザ施設管理事業 +117千円 千里ニュータウン情報館運営事業 +565千円

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	-	-	-	-
行政サービス活動支出	31,503	33,706	37,272	3,565
行政サービス活動収支差額	△31,503	△33,706	△37,272	△3,565
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	-	-	-
投資活動収支差額	-	-	-	-
財務活動収入	-	66	-	△66
財務活動支出	7,638	7,638	7,638	-
財務活動収支差額	△7,638	△7,572	△7,638	△66
収支差額 合計	△39,141	△41,278	△44,910	△3,631
一般財源充当額	39,141	41,278	44,910	3,631
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の 主な内容	(行政サービス活動支出) 職員人件費 26,138千円(+2,878千円) 物件費 9,194千円(+835千円)
--------------	---

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
入館者1人あたりの コスト	平成29年度	8,658	5,539 円	令和2年3月31日現在の入館者数で算出し、入館者1人あたり1,441円のコストが生じています。
	平成30年度	10,215	3,370 円	
	令和元年度	26,749	1,441 円	
床面積1㎡あたりの 費用	平成29年度	206.94	231,724 円	施設の床面積1㎡あたり186,247円のコストがかかっています。
	平成30年度	206.94	166,362 円	
	令和元年度	206.94	186,247 円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成30年度末 A	令和元年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成30年度末 A	令和元年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	9,401	9,556	154
未収金	-	-	-	地方債	-	7	7
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	1,763	1,910	147
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	7,638	7,638	-
有形固定資産	43,434	42,422	△1,012	固定負債	109,669	102,135	△7,534
土地	-	-	-	地方債	66	59	△7
建物・工作物	43,434	42,422	△1,012	長期借入金	-	-	-
リース資産	-	-	-	退職手当引当金	17,947	18,059	111
建設仮勘定	-	-	-	リース債務	-	-	-
無形固定資産	76	76	-	その他固定負債	91,656	84,018	△7,638
インフラ資産	-	-	-	負債の部合計	119,070	111,691	△7,380
土地	-	-	-	純資産	△75,560	△69,193	6,367
建物・工作物	-	-	-				
建設仮勘定	-	-	-				
重要物品	-	-	-				
図書館資料	-	-	-				
投資その他の資産	-	-	-				
出資金	-	-	-				
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	43,510	42,498	△1,012	純資産の部合計	△75,560	△69,193	6,367
				負債及び純資産の部合計	43,510	42,498	△1,012

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

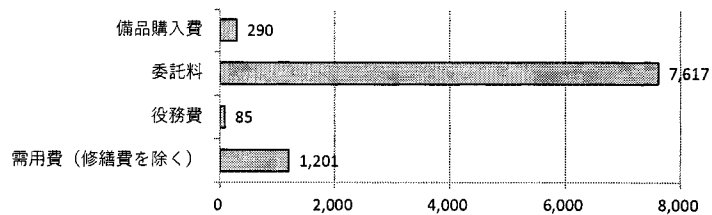
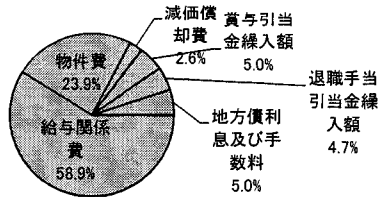
事業従事人数	常勤・再任用		非常勤	臨時雇用員 年間従事延日数	審議会委員等 実人数	合計(千円)
	月平均	人				
給与関係費等	2.9	人		187	日	26,396
内、時間外勤務手当	235	千円				

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	千里ニュータウン情報館 建物減価償却による減少
その他固定負債	PFI事業債務の返済による減少

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	千里ニュータウン情報館
取得年月日	平成24年(2012年)6月1日
建物・工作物の取得価額	50,268 千円
建物・工作物の減価償却累計額	7,846 千円
利用料金収入	- 千円

▽分析指標

(単位:%)

分析指標	年度	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率		-	-	-	-
施設老朽化比率		11.6	13.6	15.6	2.0
受益者負担比率		-	-	-	-
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		100.0	99.8	100.0	0.2
経常費用対公共資産比率		95.4	68.5	76.7	8.2

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.0%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

経常費用の主なものは、給与関係費22,693千円(58.9%)、物件費9,194千円(23.9%)となっています。給与関係費増加の主な理由は、千里ニュータウン情報館の維持管理体制の充実に伴う、臨時雇用員の新規任用等があります。物件費の内訳は、4,429千円が千里ニュータウン情報館の維持管理に係る委託料、1,633千円が千里ニュータウン情報館警備・保安業務に係る委託料、200千円が千里ニュータウン情報館の企画展に係る委託料、550千円が千里ニュータウン情報館ホームページリニューアル業務に係る委託料、1,201千円が需用費(光熱水費1,020千円、消耗品費179千円、食糧費2千円)です。減価償却により資産(建物)が減少しています。平成24年に供用開始した施設ですので、老朽化率は15.6%と、市保有施設全体の老朽化率57.0%と比較して、かなり低くなっています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

千里ニュータウン情報館は平成24年(2012年)9月3日に開館しました。開館2年目以降、平成28年度(2016年度)までは入館者数が減少傾向でしたが、平成29年度(2017年度)以降増加しています。常設展示に加えて、年に2回企画展示を行ったほか、複合施設である特徴を生かして、同じ千里ニュータウンプラザ内の図書館などと連携した展示やイベントの充実を図りました。さらに、平成30年度(2018年度)は博物館、令和元年度(2019年度)は大阪大学と連携した企画を実施しました。これらの要因が入館者増加につながったと考えられます。今後も多くの方々に利用していただくために、より充実した内容にすることが課題です。本施設の老朽化率は15.6%と高くはありませんが、日頃から適切な維持管理に努めるとともに、空調温度のこまめな調整などにより、維持管理費や光熱水費などのコストの節減に努める必要があります。